No.3

在外教育施設　グアム日本人学校だより

HAFA ADAI

HAFA ADAI（ハッファ・アデイ－先住チャモロ人の言語で「こんにちは（やぁ元気？）」）
http://www.jcguam.org/jsg/top/
２０１１年１０月５日号

グアム日本人学校
校長　　中村　宏

グアム日本人学校　その３

体育館もプールもない…

『HAFA ADAI』№１でもお知らせしましたが、グアム日本人学校には体育館もプールもありません。日本の学校から見れば信じられないようなことですが、本当です。プールはともかく、体育館のない学校を想像してみて下さい。特に、学校の一年間の流れの中で考えてみると、どういうことになるかよくわかります。

まずは４月の着任式に始まり、始業式、そして入学式と一連の儀式的行事は普通全て体育館で行います。しかし、グアム日本人学校では、これらの行事を行うために小学部２年生から４年生までの教室の壁を取り払って、一つの大きな空間を作るのです。そして、ここで儀式的行事を行うのです。

【上写真－教室の壁の撤去作業】

儀式的行事だけではありません。学習発表会は、さすがに教室の壁を取り払った程度では出来ませんので、これまではホテルのホールを借り切って行っていました。しかし、これにしても大変なことです。まず、劇や合唱合奏に取り組む子どもたちは、普段の練習場所であるプレイルームや屋根付き通路の下と、本番のステージとが全く違っていることを覚悟の上で練習しなければなりません。また、リハーサルや本番では大道具小道具を全て本番が行われる会場に運ばなければなりません。搬出入は教員の仕事です。

【下写下－２０１１年学習発表会　小学部低学年『おおきな　かぶ』】

さらに、会場借り受けにも費用がかかります。これらの困難を乗り越えて行う学習発表会は、子どもたちや保護者はもちろん、日本人社会の多くの人が毎年楽しみにしています。

グアム日本人学校にはプールもありません。海洋性亜熱帯気候のこの地の学校にプールがないということは実にもったいない話です。年中泳げる気候でありながら、学校の授業で水泳練習ができるのは、１年間に６回です。それも、コンドミニアムのご厚意でプールをお借りしての実施であり、グアム日本人学校がいかに地域の皆様に支えられているかを痛感する一時です。

【写真左－コンドミニアムのプールを借りての『水泳教室』】

南の果物たくさんの校庭

グアムはさすがに南の島、多くの果物があります。グアム日本人学校の敷地内にも何種類か植えられています。スターフルーツ（昔南洋に住んでいた日本人は「星リンゴ」とも呼んでいたようです）、バナナ、パキラ、サワーサップ、アティス、パンの木、グァバ、桑の実、パパイヤ等々の種類があります。

【写真上－スターフルーツ】

【写真下－パキラ】

【写真上－バナナもあります】

椰子の木もたくさん植えられていますので、いかにも南国という風景ですが、実はこの椰子の実は、落下して人の頭に当たるととても危険です。ですから、子どもたちがよく通る場所では、大きくなった椰子の実は危険防止のために落としてしまいます。

【写真左ー落とした椰子の実を運ぶお手伝いを、小学部２年生が手伝ってくれました。】

修学旅行は日本行き

グアム日本人学校の修学旅行は､小学部６年生と中学部２年生が合同で日本に行きます。以前はオーストラリアへ行っていた時期もあったようですが、やはり学校生活の集大成としては学ぶべきものは日本が格段に多いと言えます。行き先は広島・関西方面か関東方面ですが、昨年と今年は広島・関西方面です。

修学旅行に参加する児童生徒は、事前にじっくりと学習を積みます。特に、広島の平和記念資料館を中心に学習する原爆に関わる歴史や、京都・奈良の歴史的建造物である寺社についてはしっかり調べます。

昨年の修学旅行で児童生徒が大喜びしたのは、宮島で食べたお好み焼きでした。日本から離れて暮らす児童生徒にとっては、お好み焼きに限らず、日本にある当たり前の物であっても感激してしまうことがあるのです。

現在頭が痛いのが円高です。旅行業者に最初に見積もりを取った時点から比べ急激に円高が進み、当初予算を大幅に超えてしまいました。そのため、ぎりぎりまで切り詰めての計画となってしまいました。

【写真左上ー宮島でのお好み焼き】　　【写真右上ー京都・金閣寺】

※上写真はいずれも２０１０年の修学旅行です。

交通事情

国が違えば交通事情や交通規則も違ってきます。今回は交通規則について報告します。

まずは、自動車の右側通行からです。グアムは、日本とは反対で自動車は右側通行です。当然のことながらハンドルは左側に付いています。赴任当初は、まずこの右側通行に慣れるのに一苦労しました。特に交差点では、どうにもこれまでの運転感覚と違ってしまうのです。一つの交差点を右折したり左折したりする度に、頭の中で走行車線を予習してから交差点に進入します。特に左折は要注意で、一度ならず日本の感覚で曲がり、反対車線に突入してしまったことがありました。また、私の友人は、私の見ている前で発進した際、そのまま左側の車線に入って走行を始めたのです。幸い数秒後に気づいて急停車しましたが、本当に危ないところでした。

ノーヘルでオートバイなどに乗って走っている姿や、トラックの荷台に乗っている姿も見かけます。また、方向指示器を出す人が少なく、対向車の動きが予測できない事があります。このように、かなり日本の交通規則や実態と違うところがあります。

【写真左上－ノーヘルも見かけます】

【写真右上－トラック荷台に乗っている人】

しかし、感心するルールもいくつかあります。まずは、正面の信号が赤でも、車が来なければ、一旦停止して安全を確認後は右折が出来るのです（右折不可の交差点もあるようです）。これならば、右折車線の車がスムーズに流れていきます。

さらに感心したことは、中央に黄色の線で区切られた「待避帯」とでも呼ぶべき区域が設けられている所があることです。例えば脇道から左折のためにこの道路に入る時に、車の列がなかなか途切れない時でも、左側からの流れさえ途切れればいったんこの待避帯の中に入って車が途切れるのを待つことが出来ますし、この道路から左折して出ようとする場合、対向車が続いていても、後続車を気にすることなく待避帯の中で待てるのです。これは（道路幅さえあれば）日本の交通規則にも取り入れて欲しいなと思いました。

以上、グアムの交通事情の報告でした。

【写真上－「待避帯」がある道路】

名誉挽回－ゴミ拾い

『HAFA ADAI』№.２で【ゴミポイ捨てと無分別】をレポートしました。これに関して、「ゴミポイ捨て」の名誉挽回となる場面を目撃しました。土曜日の早朝ジョギングをしていると、５～６人のグループが数グループで道ばたのゴミ拾いをしているのです。急いで自宅に帰り、この光景をカメラで撮りました。日本でもそうですが、やはりこの国も、ポイ捨てをする人がいればそれを拾う人もいるのです。「ポイ捨てはやめんかい！」と思ってしまいます。

【写真上－汗をかきながらゴミ拾いをするグループ】